

THE HEROES

Chronicles of the Warriors: Japanese Swords x Ukiyo-e from the Museum of Fine Arts, Boston

鑑賞
ガイド



ボストン美術館所蔵

刀剣 × 浮世絵

武者たちの物語

2022. 7.2^土 - 8.28^日



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

mfa
Museum
of Fine Arts
Boston

日本博
JAPAN CULTURAL EXPO



令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト
補助対象事業
(独立行政法人日本芸術文化振興会 / 文化庁)



上から歌川国貞「武蔵坊弁慶 御曹子牛若丸」文化10-11年(1813-14)頃 / 〈太刀 銘 安綱〉平安時代(11世紀) /
〈橋弁慶図録 無銘(宗典派)〉江戸時代(19世紀) すべてWilliam Sturgis Bigelow Collection Photographs © Museum of Fine Arts, Boston

浮世絵 & 武者絵とは

浮世絵版画は、江戸時代に多くの人々に楽しまれた絵画です。輪郭線となる墨の版(主版)にさまざまな色の版を摺り重ねることで、同じ絵を手早く大量に摺ることができました。

浮世絵版画は版元(出版社／プロデューサー)の依頼で絵師が下絵を描き、彫師が色ごとに版木を彫り、それらを摺師が摺り1つの作品が完成します。歌舞伎役者や美人を描いたものが中心でしたが、景色の良い所を描いた名所絵や物語に登場する人気の英雄(ヒーロー)を描いた武者絵も数多く作られています。



武 者絵には共通のイメージがあり、物語を知っている人が見れば、どの場面の誰を描いたのかすぐわかりました。

例えば「♪まさかり担いだ金太郎」の歌でおなじみの金太郎は赤い肌が特徴。大人になると坂田金時(公時)と名乗り、武勇で知られた源頼光の家臣(頼光四天王)の一人として活躍します。さて、「源頼光の四天王土蜘蛛退治之図」では主・頼光の病気の原因となった土蜘蛛を頼光四天王たちが協力して退治する様子を描いていますが、金時はどこにいるでしょうか？ヒントは「赤い肌」です。



U-11 北尾重政(猿と熊の相撲の行司をする金太郎)安永元-3年(1772-74)頃

U-17 歌川国芳「源頼光の四天王土蜘蛛退治之図」(部分)天保10-11年(1839-40)頃
ともにWilliam Sturgis Bigelow Collection



金太郎を
(坂田公時)
探してみよう



源

頼光と四天王は鬼退治でも有名でした。大江山おおえやま酒吞童子しめてんどうじは、頼光と頼光四天王ひらいよすまさ、平井保昌が、神様の助けを得て都で悪さをする大江山の鬼・酒吞童子を退治するお話です。酒吞童子は首をはねられてもなお頼光の頭に食いつきます。迫力ある酒吞童子の表情や吹き荒れる風の表現に注目！ちなみに、酒吞童子を成敗した頼光の太刀は「天下五剣」に数えられる名刀「童子切安綱」といわれています。ボストン美術館の《太刀 銘 安綱》(長さ81cm)も同じ安綱作で元々は90cmほどの長い太刀でした。

U-22 歌川国芳「源頼光」文政3年(1820)頃

S-1 《太刀 銘 安綱》平安時代(11世紀)ともにWilliam Sturgis Bigelow Collection



源

平合戦の英雄の一人、源義経みなもとのもよしつね。一ノ谷の戦いでは、平氏の陣の裏にある急な崖から馬で駆け下りる奇策(鶴越の逆落とし)で、見事勝利しました。左側、黒い馬に乗り、勇ましく駆け下りる赤い鎧の武将が義経です。右下では義経の家臣・弁慶が体を丸め転がっています。その近くでは馬を担ぐ武士・畠山重忠はたけやま しげただが！愛馬が怪我をしないよう背負ったといわれています。

畠山重忠
源頼朝



U-J2 歌川国芳

部分：畠山重忠

「義経之軍兵一ノ谷逆落シ之図」

天保11-12年(1840-41)頃 個人蔵

古

代からの名刀の産地であった備前国びぜんごくに(現在の岡山県南東部)で制作されました。平安時代の武者たちが好んだ美しさと力強さを兼ね備えた太刀姿をよくとどめています。



S-J4 国宝(太刀 銘 正恒)平安時代(11世紀) ふくやま美術館(小松安弘コレクション)

建

久4年(1193)年、鎌倉幕府将軍・源頼朝が富士の裾野で行った狩猟・富士の巻狩。^{ゆきがり}

富士山を背景に、朱の傘を差し掛けられた頼朝と暴れまわる猪を倒す仁田四郎忠常がお決まりの構図です。

富士の巻狩は曾我兄弟が父の仇・工藤祐経を討つ『曾我物語』の舞台でも知られ、本図も左端の木の陰に曾我兄弟(千鳥模様の着物が兄・祐成、蝶の模様の着物が弟・時致)が。視線の先には工藤祐経がいます。

父の曾我兄弟
敵討ちへ



U-86 歌川国貞「源頼朝公富士之裾野牧狩之図 三枚続」文化10年(1813)頃
William Sturgis Bigelow Collection

部分:曾我兄弟

**鎌**

倉幕府が滅亡した後、朝廷は南朝と北朝に分かれ約60年も争いました(南北朝時代)。その争乱を描いた『太平記』は江戸時代に人気の物語となりました。

この作品も、湊川の戦いで南朝の武将・楠正成を討った北朝の武士・大森彦七が怨霊に悩まされるという『太平記』の一節を描いています。山道で出会った女性を背負って歩く彦七ですが、よく見ると水面には鬼の姿が…その正体は楠正成の怨霊でした。

U-94 歌川国貞「大森彦七」
文政11-13年(1828-30)頃
Bequest of Maxim Karolik

部分:鬼女





部分：謙信



部分：信玄

川 中島の戦いとは、戦国時代に甲斐の大名・武田信玄と越後の大名・上杉謙信が川中島を舞台に5回にわたりくりひろげた戦いです。中でも最も激しい戦いであったとされる4回目の戦い(永禄4年/1561)では、信玄と謙信による「一騎打ち」という伝説も生み出され、江戸時代、人気の武者画題となりました。躍動感ある謙信に対し、静かにどっしりと構える信玄と、工夫された構図にも注目です。また静岡では、特別に信玄と謙信ゆかりの太刀を並べて展示します。



S-J11 重要文化財(太刀 銘 来国長)南北朝時代(14世紀) 恵林寺(信玄公宝物館)



U-100 歌川国芳「川中島信玄謙信旗本大合戦之図」(部分)弘化2年(1845)頃 William Sturgis Bigelow Collection

日本刀の種類

太刀

平安時代中期から室町時代前期にかけて制作され、刃を下向きに腰帯から吊り下げて身に着けます。主に騎馬で馬上から振り下ろすのに適した様式として発展しました。刃長2尺(60cm)以上。

打刀(刀)

室町時代中期から盛んに制作され、刃を上向きに腰帯に指し込んで身に着けます。戦法が一騎打ちから徒歩による集団戦へと変化したことで、抜き打ちに適した軽快な形態が主流となりました。

脇指

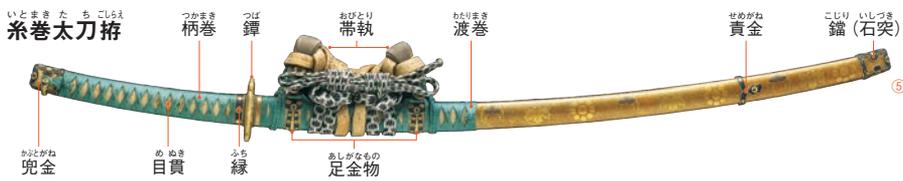
一般に大小2口身に着けた刀のうち短い方で、指添とも呼ばれました。打刀と同様に刃を上向きに腰帯に指し込みます。刃長1尺(30cm)以上2尺(60cm)未満。

短刀

近世以前は刀、腰刀などと呼ばれました。脇指よりも短く刃長1尺(30cm)未満。



部分名称



①勝川春章「源義経」(部分) 明和5-6年(1768-69)頃 William Sturgis Bigelow Collection②歌川国芳「勇魁三十六合戦 四 新田義貞」(部分) 嘉永4-5年(1851-52) Gift of the Anne Gordon Keidel Trust of June 2016③歌川芳虎「犬飼現八庚申山でけけ猫を射る」(部分) 嘉永2-3年(1849-50)頃 William Sturgis Bigelow Collection④(太刀 銘 備州長船住兼光)鎌倉時代(14世紀) Charles Goddard Weld Collection⑤(金梨子地家紋糸巻太刀拵)江戸時代(17世紀) Charles Goddard Weld Collection⑥加納夏雄《蠟色塗鞘打刀拵・牡丹図鐔・牡丹図拵金具》江戸時代・明治時代(19世紀) William Sturgis Bigelow Collection

① 姿(すがた)

刀身の鋒から茎までの形状を「姿」と呼びます。刃の長さ、身幅、厚さ(重ね)のほか、反りの位置や深さ、鋒の大きさなど、制作された時代によって特徴が異なります。

前期
古墳時代
↓
平安時代

反りがほとんどない直刀で、刀身に鑄を立てない平造や、刀脊りに鑄状の筋がある切刃造です。



S-1 《直刀 無銘》 全長105.0cm 國學院大學博物館

鎌倉時代後期
↓
鎌倉時代初期

平安時代後期に鑄造で反りがついた日本刀の様式が完成したと考えられています。総じて刀身は細身で、手元に近い腰元で強く反りがつく「腰反り」となり、鋒の小さな優美な印象が特徴です。



S-1 《太刀 銘 安綱》 全長101.5cm 刃長81.0cm 反り2.7cm William Sturgis Bigelow Collection

鎌倉時代中期
↓
後期

鎌倉武士の気風を反映した豪壮な太刀が盛んに制作されました。一般には腰反りですが、米派など京都の刀工たちの作品には反りの起点が中程になる「中反り」も多く、鋒が詰まって猪首風(ずんぐり)と詰まった様子がイノシシの頭を思わせる形)となった太刀も見られます。



S-7 《太刀 銘 長則造》 全長95.5cm 刃長72.0cm 反り2.2cm Gift of Mrs. Charles Goddard Weld

南北朝時代

身幅が広く、刃長3尺(約90cm)を超える大太刀が制作されました。短刀も刃長1尺(約30cm)をわずかに超え、浅く反りがついて大振りになります。この時代の大太刀は、後世作者銘が無くなるまで大きく磨上げ(茎を削って刀身を短くすること)られたものが多くあります。



S-16 重要文化財(太刀 銘 備州長船兼光/延文三年二月日)
全長115.0cm 刃長88.8cm 反り2.8cm ふくやま美術館(小松安弘コレクション)

前期
室町時代

長く続いていた戦乱が終息すると、鎌倉時代初期の姿に倣った作風が再び流行します。身幅がやや細く、中鋒である点は共通しますが、先端近くで反りがつく「先反り」となるのが特色です。



S-15-1 《太刀 銘 三条吉則作》 全長78.5cm 刃長62.0cm 反り2.0cm William Sturgis Bigelow Collection

後期
室町時代

戦法の変化にともない打刀(刀)の制作が盛んになりました。刃長2尺1寸(約63cm)前後と短くなり、茎が短く片手打ちに適した姿となります。

前期
江戸時代

身幅は元幅(手元に近い刃区と棟区を結ぶ幅)に比べて先幅(鋒に近い先端部分の幅)が細く、反りが浅くなり、刃長は2尺3寸(約70cm)前後が一般に多く見られます。



S-19 《刀 銘 長曾祿興正》 全長88.0cm 刃長69.5cm 反り1.3cm Gift of the W.A. Compton Oriental Arts Foundation

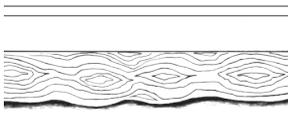
後期
江戸時代

身幅が広く、元幅と先幅の差が少なく、刃長は2尺5寸(約76cm)と長寸になり、大鋒で重ねが厚い力強い刀が多く制作されました。

ここに注目！

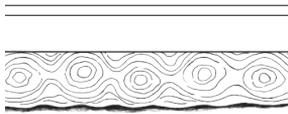
② 地鉄(じがね)

日本刀特有の折り返し鍛錬^{たんれん}という制作工程により、さまざまな模様
が刀身の表面に現れます。木材の断面にたとえて板目、柾目、柂目と
呼ばれ、制作された地域や流派によって特徴が異なります。そのほかにも柂目が大きく波
打つ綾杉肌、梨の切り口のような梨子地肌などもあります。



板目

最も多くみられる地文で、不規則
な山や波のような模様。



柾目

ほぼ同心円状の模様。



柂目

ほぼまっすぐな平行の模様。

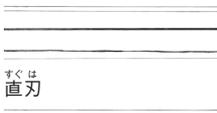
ここに注目！

③ 刃文(はもん)

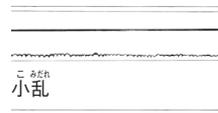
土置き、焼入れという工程によって地鉄と刃の境にさまざまな形の
模様が見えます。

この刃文は直線的な直刃と乱刃に大別され、乱刃には小乱、丁子乱、
湾れ、互の目、皆焼などがあります。

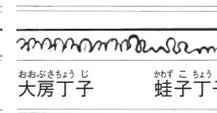
作者の個性が最も発揮される部分で、刀工や流派の特徴が表れた
重要な見どころのひとつです。



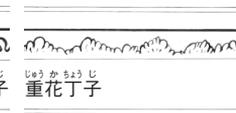
直刃



小乱

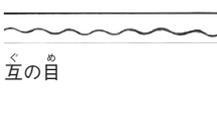


大房丁子

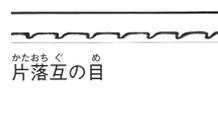


蛙子丁子

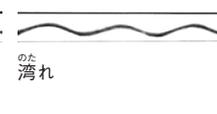
重花丁子



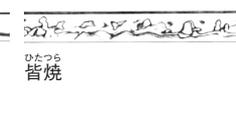
互の目



片落互の目



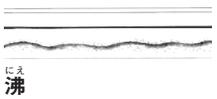
湾れ



皆焼

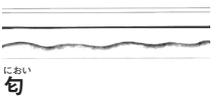
沸(にえ)と匂(におい)

高温に熱した鋼を急速に冷却する焼入れ
によって刃文の周辺に鋼の微粒子が現れ
ます。焼入れ条件の違いにより粒の大き
さが異なり、沸、匂と呼び区別しています。



沸

肉眼で識別できる粗い
粒子。マルテンサイトと
いうとても硬い鋼の組
織です。

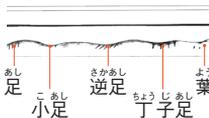


匂

肉眼では識別できない
細かな粒子。トルスタ
イトといいますが、基
本的な性質はマルテン
サイトと同じです。

刃中の働き

刀身に焼き入れをすると、足、葉、金筋、砂
流しといった細かな変化が現れます。これ
らは沸、匂によって形成され、刃文に変化
をもたらしています。このことを総じて
「刃中の働き」と称します。



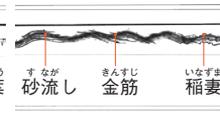
足

小足

逆足

葉

丁子足



砂流し

金筋

稲妻



喰違刃

二重刃

打のけ